

2025 年 発行

スリープテック市場動向と成長予測 2025 ～睡眠の質のモニタリングと改善～

株式会社ふじわらロスチャイルドリミテッド
〒101-0031 東京都千代田区東神田 2-8-1 TSR 第2ビル
TEL: 03-5821-3993
e-mail: info@fujiroth.com

目次

1.	レポートの目的・概要	5
1.1.	目的	5
1.2.	Executive Summary	5
2.	スリープテック市場の概要	7
2.1.	スリープテックの歴史	7
2.2.	スリープテックの定義	9
2.3.	市場範囲	10
2.3.1.	睡眠モニタリング・トラッキングデバイス	10
2.3.1.1.	ウェアラブル型: スマートウォッチ (Apple Watch、Fitbit)、スマートリング (Oura Ring) ..	11
2.3.1.2.	非接触型: ベッド下マット型センサ	12
2.3.1.3.	スマートベッド・マットレス	12
2.3.1.4.	センシング機能付きスマートベッド・マットレス	13
2.3.2.	睡眠改善機器の製品カテゴリ	15
2.3.2.1.	ホワイトノイズマシン	16
2.3.2.2.	光療法デバイス (Philips SmartSleep)	16
2.3.2.3.	アロマディフューザ (睡眠を促す香りの活用)	17
2.3.3.	ソフトウェア & アプリ	18
2.3.3.1.	睡眠データの記録と可視化	18
2.3.3.2.	高度な睡眠分析と評価	19
2.3.3.3.	脳波に基づいた睡眠改善のための介入	19
2.3.3.4.	情報提供と教育 (脳波に関する情報を含む)	19
2.3.3.5.	遠隔モニタリングと連携 (脳波データ共有)	19
2.3.4.	医療・臨床向け睡眠技術	19
2.3.4.1.	高精度な睡眠段階判別アルゴリズム	19
2.3.4.2.	睡眠呼吸イベントと脳波の関連解析	20
2.3.4.3.	てんかん性放電の検出	20
2.3.4.4.	睡眠ポリグラフ検査 (PSG) の自動解析支援	20
2.3.4.5.	脳波スペクトル解析	20
2.3.4.6.	睡眠研究における応用	20
2.3.4.7.	ブレイン-コンピュータインターフェース (BCI) の応用	20
2.4.	市場セグメント分類	21
2.4.1.	用途別:	21
2.4.1.1.	消費者向け	21
2.4.1.2.	医療・ヘルスケア向け	22
2.4.1.3.	研究開発向け	23
2.4.2.	製品・サービス別:	24
2.4.2.1.	デバイス	24
2.4.2.2.	ソフトウェア・アプリケーション	25
2.4.2.3.	サービス	26
2.4.2.4.	その他	27
2.4.3.	技術別:	27
2.4.3.1.	センサ技術	27
2.4.3.2.	生体信号処理・解析技術	28
2.4.3.3.	刺激技術	29
2.4.3.4.	その他技術	29
3.	睡眠の質向上に関する技術・製品	30
3.1.	睡眠の質向上を目的とした製品の進化	30
3.1.1.	寝具 (ベッド・マットレス・枕) の進化	31
3.1.2.	睡眠モニタリング・トラッキングデバイスの進化	32
3.1.3.	睡眠改善機器の進化	32
3.1.4.	ソフトウェア・アプリの進化	33
3.2.	主要企業と市場競争	34
3.2.1.	主要企業	34
3.2.1.1.	大手テクノロジー企業:	34

3.2.1.2.	ウェアラブルデバイス専業メーカー:	35
3.2.1.3.	寝具メーカー:	36
3.2.1.4.	睡眠改善機器メーカー:	37
3.2.1.5.	ソフトウェア・アプリ開発企業:	38
3.2.1.6.	医療・臨床向け企業:	39
3.2.2.	市場競争:	40
3.2.3.	今後の競争の方向性:	42
3.2.3.1.	高精度睡眠モニタリング技術:多角的センシングと高度なアルゴリズムの融合:	42
3.2.3.2.	パーソナライズされた睡眠ソリューション:	42
3.2.3.3.	予防医療・ウェルビーイングへの統合:睡眠のバイオマーカーとしての活用:	43
3.2.3.4.	医療・臨床分野における規制遵守とエビデンスの厳格化:	44
3.3.	医療機器認証の取得 (FDA・CE 認証):	45
3.3.1.	FDA 認証の状況:	45
3.3.2.	CE 認証の状況:	46
3.3.3.	脳波計測デバイスの認証状況:	47
3.4.	スリープテックの具体的な製品:	48
3.4.1.	ウェアラブルデバイス:	49
3.4.2.	脳波センシング:	59
3.4.3.	非接触センサ:	70
3.4.4.	光・音環境調整:	76
3.4.5.	AI 睡眠コーチング:	80
4.	技術トレンドとイノベーション:	85
4.1.	AI & 機械学習の発展 (データドリブンな睡眠改善精度向上):	85
4.1.1.	主な AI 解析手法:	86
4.1.1.1.	高精度な睡眠データ解析:	86
4.1.1.2.	睡眠障害の予測・診断支援:	87
4.1.1.3.	パーソナライズド睡眠アドバイス:	87
4.1.1.4.	自動化されたスマートホーム連携:	88
4.1.1.5.	AR/VR を活用した新しい睡眠誘導技術:	88
4.1.2.	AI の進化と活用動向 (AI ベース):	89
4.1.3.	スリープテック AI 関連企業:	89
4.2.	バイオセンサの進化がもたらす睡眠研究と臨床応用の革新:	94
4.2.1.	血中酸素飽和度 (SpO ₂) 計測技術:	95
4.2.2.	皮膚温 (Tsk) 計測技術:	95
4.2.3.	心拍変動 (HRV) 計測技術:	96
4.2.4.	脳波 (EEG) 計測技術:	96
4.2.5.	ナノセンサ・バイオマーカー分析技術:	97
4.2.6.	今後の展望と市場への影響:	99
4.3.	睡眠モニタリングに関する研究開発動向例:	100
4.3.1.	関連研究開発論文例:	100
4.3.1.1.	睡眠モニタリングシステムの現状の課題(論文レビュー):	100
4.3.1.2.	ウェアラブルデバイスを用いた睡眠モニタリングに関する論文例:	103
4.3.1.3.	非接触型睡眠モニタリングに関する論文例:	105
4.3.1.4.	生体信号を用いた高精度睡眠モニタリングに関する論文例:	106
4.3.2.	関連特許例:	108
4.3.2.1.	ウェアラブルデバイスを用いた睡眠モニタリングに関するもの:	108
4.3.2.2.	生体信号を用いた高精度睡眠モニタリングに関するもの:	110
4.3.2.3.	非接触型睡眠モニタリングに関するもの:	111
5.	消費者ニーズ:	112
5.1.	消費者ニーズ:	112
5.1.1.	睡眠の質の向上と最適化:	112
5.1.2.	睡眠課題の解決と管理:	113
5.1.3.	日中のパフォーマンス向上との関連:	113
5.1.4.	健康管理とウェルビーイング:	114
5.1.5.	利便性と使いやすさ:	114
6.	市場機会と課題:	115

6.1. 市場機会の詳細	115
6.1.1. 高精度・多機能な睡眠モニタリングデバイス:	116
6.1.2. 個別最適化された睡眠ソリューション:	116
6.1.3. 睡眠と日中のパフォーマンス・健康の連携:	116
6.1.4. 新しい感覚体験による睡眠サポート:	117
6.1.5. 高齢者・介護分野への応用:	117
6.2. 市場の課題の詳細	117
6.2.1. データの精度と信頼性の確保:	118
6.2.2. 消費者の理解と啓蒙:	118
6.2.3. 医療・臨床現場との連携:	119
6.2.4. 技術的な課題:	119
6.2.5. 法規制と倫理的な課題:	120
7. 市場規模と成長予測（2024-2035 年）	121
7.1. グローバル市場規模の推移と予測（2024～2035 年）	121
7.1.1. 世界市場の動向:	121
7.1.1.1. グローバル市場規模の予測（ウェアラブル機器,非ウェアラブル機器別）	121
7.1.1.2. グローバル市場規模の予測(カテゴリ別)	123
7.1.1.3. 機能別×製品形態 クロス分析	125
7.1.1.4. 主要企業	126
7.2. 日本のスリープテック市場分析（2024-2035 年）	126
7.2.1. 市場規模予測（ウェアラブル・非ウェアラブル別）	126
7.2.2. カテゴリ用途別市場規模（モニタリング機器・睡眠改善機器・サービス）	127
7.2.2.1. 機能別×製品形態 クロス分析	130
7.2.2.2. 日本市場における主要企業と事業概要（用途別：モニタリング／睡眠改善／サービス）	130
7.2.2.3. 日本市場のまとめ	132
7.2.3. 市場成長ドライバーと課題	132
8. まとめ	133
9. 関連資料（ふじわらロスチャイルドリミテッド発行）	134
FIG. 1 Executive Summary 主な図表	6
FIG. 2 睡眠の質モニタリング	10
FIG. 3 睡眠改善機器	15
FIG. 4 ソフトウェア&アプリ	18
FIG. 5 市場セグメント分類	21
FIG. 6 睡眠の質モニタリングとフィードバックシステム概要	31
FIG. 7 主要企業	34
FIG. 8 Fitbit Sense2	51
FIG. 9 Apple watch Series9	52
FIG. 10 Garmin Venu 3S	53
FIG. 11 WITHINGS ScanWatch Nova	54
FIG. 12 Oura Ring	56
FIG. 13 SOXAI RING	57
FIG. 14 Amazfit	58
FIG. 15 SLEEPON	59
FIG. 16 muse	62
FIG. 17 SmartSleep Deep Sleep Headband	63
FIG. 18 Sleep Shepherd	64
FIG. 19 Sleep profiler	66
FIG. 20 Sleep Profiler PSG2	67
FIG. 21 S'UIMIN	68
FIG. 22 WITHINGS SLEEP	72
FIG. 23 Eight Sleep	73
FIG. 24 Emfit QS	74
FIG. 25 Active Sleep (パラマウントベッド)	75
FIG. 26 Sleepace RestOn Z200	76

FIG. 27 Withings Aura Sleep System.....	78
FIG. 28 Sleep Tech における AI 応用の概要	86
FIG. 29 AI の進化と活用動向.....	89
FIG. 30 睡眠モニタリングシステムの現状の課題 1.....	101
FIG. 31 睡眠モニタリングシステムの現状の課題 2.....	101
FIG. 32 睡眠ポリグラフ検査	102
FIG. 33 脳波	102
FIG. 34 心電図、ワイヤレスボディエリアネットワーク	103
FIG. 35 消費者ニーズ概要.....	112
FIG. 36 市場機会概要.....	115
FIG. 37 市場課題概要.....	118
FIG. 38 スリープテック グローバル市場動向（カテゴリー別）	122
FIG. 39 スリープテック関連機器グローバル市場規模（カテゴリー別）	124
FIG. 40 日本市場規模予測（ウェアラブル・非ウェアラブル別）	127
FIG. 41 日本市場におけるカテゴリー別市場規模推移	128
FIG. 42 日本市場 機能別×製品形態別クロスマトリックス	130
Table 1 代表的な製品・企業例	40
Table 2 主なスリープテック関連機器.....	48
Table 3 主なウェアラブルタイプ製品の特徴比較 1	49
Table 4 主要なウェアラブルタイプ製品の特徴比較 2	50
Table 5 主な脳波測定方式	60
Table 6 主要な脳波測定式製品の特徴比較 1	60
Table 7 主要な脳波測定式製品の特徴比較 2.....	61
Table 8 主要なマット式製品（非接触センサ）の特徴比較	71
Table 9 体液由来バイオマーカ	97
Table 10 主なセンサ技術と応用領域	98
Table 11 睡眠センサ市場_セグメントと成長ドライバー	100
Table 12 スリープテック グローバル市場動向（カテゴリー別）	123
Table 13 サービスの本質的な構成要素	123
Table 14 ウェアラブル・非ウェアラブル別のサービス内容	123
Table 15 スリープテック関連機器グローバル市場規模（カテゴリー別）	125
Table 16 機能別×製品形態別クロスマトリックス	125
Table 17 グローバル市場におけるカテゴリー別の主な企業群	126
Table 18 日本市場規模予測（ウェアラブル・非ウェアラブル別）	127
Table 19 日本市場におけるカテゴリー別市場規模推移	129
Table 20 スリープテック 主要な日本企業	131

1. レポートの目的・概要

1.1. 目的

本レポートの目的は、スリープテック市場の全体構造とその成長ドライバーを多面的に明らかにし、主要な技術トレンド、製品カテゴリ別の市場動向、主要企業の戦略的取り組みを分析することで、今後の事業開発・投資判断・政策立案に資する戦略的知見を提供することである。

1.2. Executive Summary

スリープテック市場は、世界的な睡眠障害の増加、メンタルヘルスへの意識の高まり、高齢化社会の進行、そしてウェアラブルデバイスや AI 技術の進展を背景に急速な成長を遂げている。本レポートは、世界および日本におけるスリープテック市場の構造、主要技術、競争環境、ならびに将来予測を多角的に分析したものである。

2024 年における世界のスリープテック市場は 3.3 兆円(150 円/\$換算)に達し、2035 年には 20.2 兆円に拡大する見通しである。特に睡眠改善機器と非ウェアラブル型モニタリング機器の成長が著しく、医療・介護分野との連携によって需要が加速している。また、日本市場においては、パナソニック、オムロン、パラマウントベッドなどの大手企業を含む多様なプレイヤーが参入しており、B2B および B2C の両市場において独自のソリューションを展開している。

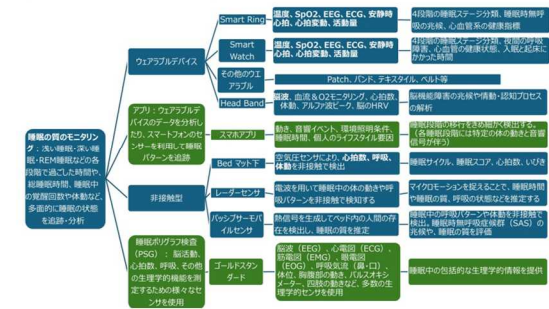
技術面では、脳波センシング、体動検知、心拍・呼吸解析を組み合わせた多変量センシング技術、ならびに AI による睡眠ステージ解析の精度向上が著しい。さらに、近年ではリモートモニタリングと遠隔診療を統合した医療向けスリープテックや、データ連携による睡眠習慣のパーソナライズ改善サービスが注目されている。

本レポートでは、機能別(モニタリング、睡眠改善、サービス)×製品形態別(ウェアラブル、非ウェアラブル)のクロスタブ分析、ならびに国内外の主要企業マッピング、日本市場におけるカテゴリ別企業リストも提示し、戦略立案に有用な知見を提供する。

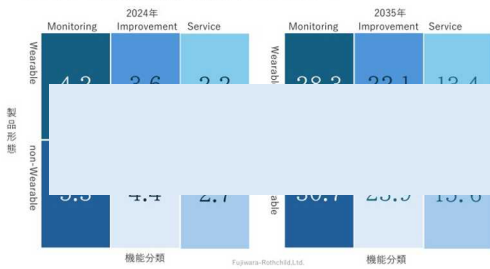
スリープテックは、予防医療、健康経営、介護支援、さらにはパフォーマンス最適化の観点から、今後も持続的成長が見込まれる分野である。

EXECUTIVE SUMMARY

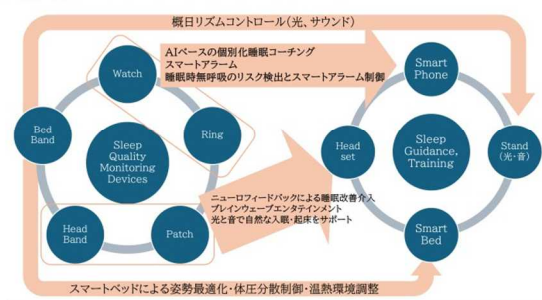
睡眠の質モニタリング(Sleep Quality Monitoring)



スリープテック市場規模：機能別×製品形態別クロスマトリックス



睡眠の質モニタリングとフィードバックシステム



日本市場規模予測(ウェアラブル・非ウェアラブル別) (億円)

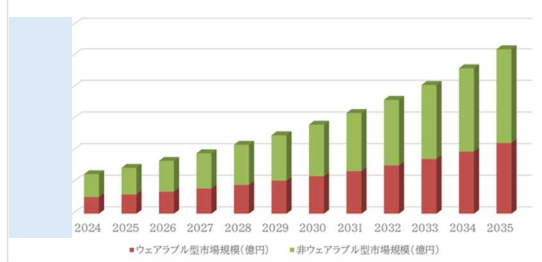


FIG. 1 Executive Summary 主な図表

グローバル市場においても、睡眠モニタリング機器、睡眠改善デバイス、関連サービスのいずれもが今後 10 年間で大きな成長を遂げると予測されており、特にサービス領域においては AI 解析や遠隔モニタリングニーズを背景に急速な拡大が見込まれる。

今後の研究開発においては、センシング精度の向上とともに、個別化医療への応用、精神疾患リスク評価支援、ならびにデータ倫理・プライバシー保護に関する規範整備が急務となるであろう。睡眠テクノロジーは、単なる健康モニタリングを超えて、ウェルビーイング向上と疾病予防インフラの中核を担う存在へと進化することが期待される。

9. 関連資料(ふじわらロスチャイルドリミテッド発行)

以下の資料は、ふじわらロスチャイルドリミテッドが発行した市場調査レポートであり、本レポートに関連して一部を補足する内容を含んでいます。詳細な内容に関しては、<https://www.fujiroth.com/> をご参照ください。

1. シリコンフォトニクス技術と応用の動向 2022
<https://www.fujiroth.com/report/106.html>
2. におい検知・香りによるヘルスケア・メンタルケア応用動向
<https://www.fujiroth.com/report/112.html>
3. セルフケアのためのストレス検知デバイス最新動向 2024
<https://www.fujiroth.com/report/113.html>



スリープテック市場動向と成長予測 2025
～睡眠の質のモニタリングと改善～

無断禁転載

株式会社ふじわらロスチャイルドリミテッド

2025 年 5 月発行

価格

電子ファイルのみ ¥450,000 ハードコピー及び電子ファイル ¥500,000